

第 38 回レーザーセンシングシンポジウム開催趣意書

第 38 回レーザーセンシングシンポジウム
実行委員長 東北工業大学 佐藤 篤

レーザーセンシングシンポジウムは、1972 年に開催された第 1 回レーザーレーダシンポジウムから始まり、第 12 回からは現在の名称に変更され、今日に至っています。本シンポジウムは国内最大のレーザーレーダ(ライダー)に関する学術会議であり、ライダーを代表とする様々なレーザーセンシングに関わる全国の研究者や技術者の発表と情報交換の場として機能しています。

第 1 回レーザーレーダシンポジウム開始の際に、レーザー・レーダ研究会が日本のライダー研究の先駆者である稲場文男東北大学教授を会長として組織され、シンポジウムの開催、レーザーセンシング技術の向上と普及に関する活動をすすめてきました。また、レーザー・レーダ研究会は、日本で開催された過去三回(第 6、17、23 回)の国際レーザーレーダ会議(ILRC)現地実行委員会を構成するなど、国際的な活動にも大いに貢献してきました。

レーザー・レーダ研究会は、平成 30 年 4 月 1 日をもって「レーザーセンシング学会」と改称し、新たに学会としての組織を整えました。これを機に、日本における今後の光センシング分野の更なる発展を目指して関係者一同鋭意邁進していく所存ですので、何卒皆様からより一層のご助力を賜りますようこの場をお借りしてお願い申し上げます。

レーザーセンシングシンポジウムは、今年で 38 回目となり、新しい組織であるレーザーセンシング学会の主催としては 3 回目の開催となります。前回は令和元年 9 月 5 日-6 日に千葉県千葉市で開催され、104 名が参加し、61 件の発表がなされました。本年は、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しオンライン形式での開催となりますが、オンライン開催の良さを活かしたシンポジウムとなるよう様々な企画をご用意しております。

本シンポジウムは、レーザーセンシングの装置開発、計測・計装技術、データ解析、運用技術など、様々な技術分野の専門家に加え、大気・海洋・気象・環境科学関係の研究者を含め、発表および情報交換を行う場として、重要な役割を担っています。今回のシンポジウムでも、レーザーを中心とした光センシングに関する幅広い分野の話題を取り上げております。

関係各位のご参加を心よりお待ちしております。